



朝一小だより

活気と潤いがあり、みんなが「育つ」学校

学校教育目標

- ・考える子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校
 令和3年8月30日
 児童数 589名
 校長 野口 邦彦

TEL048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

こんな時だからこそ、感謝を忘れず、やれることを精一杯

校長 野口 邦彦

2学期がはじまりました。長いと思われた夏休みも終わってみればあつと言う間、40日間の家庭での生活、お子さんの様子はどうだったでしょうか。

今回の夏休み、新型コロナウイルスの影響で中々外出もできず、もっぱら自宅でスポーツ観戦と言う人も多かったと思います。

その中でも、まずはオリンピック、直前まで開催の有無も含めて色々あった今回のオリンピック、しかし、いざ開催され選手たちの活躍に触れると、思わず熱くなったり、感動したり、勇気や元気をもらったり等、スポーツの持つ力をあらためて実感します。私は試合後に発する選手の言葉や姿に大変興味があります。メダルを取った選手だけでなく、思うように力が発揮できなかった選手の姿にも、学ぶべきものがたくさんあります。特に、私が印象に残ったのは、

五輪 卓球 混合ダブルス



どの選手の言葉の中にも、必ず「感謝」が述べられていたという事です。新型コロナにより異例の1年延期、そして開催していいのかも問いかげられたアスリート達、それでも試合後は「今まで支えてくれた人への感謝」そして「開催できたことへの感謝」「大会を支えてくれている人への感謝」など、どの選手からも、まずは「感謝」が述べられていました。新型コロナに揺れた今大会、色々ありましたが、選手の活躍やひたむきさ、そして画面越しとはいえ、それらに私達が触れて心動かす意味を考えると、やっぱり「やってよかった」のではないかと感じる五輪でした。(HPに掲載する「校長室だよりII」にも、何回かにわたって「東京2020オリパラに思う」という特集を書きたいと思っています。そちらもご覧ください。)

高校野球 異例のゲームセット



もう一つ、こちらも昨年は開催できなかった甲子園の高校野球。今年は何とか開催出来ましたが、新型コロナだけでなく、西日本を襲っている豪雨に悩まされた大会でした。中には、試合途中で降雨コールドになってしまった試合もありました。高校生ですから、もちろん悔しさもあるでしょう。でも、そんな気持ちをぐっと抑えて、試合後の会見では「開催してもらっただけでも」とやはり感謝を述べていました。「自分達ではどうすることもできないこと」を受け入れ、しかも「感謝」を述べる、その姿にとっても感動したと共に、私自身教えられました。

新型コロナは依然予断の許さない状況にあり、今後私達のまわりにもどんなことが起こるか、わかりません。「自分達ではどうすることもできないこと」に対して、我々はどうしても不安や不満が積もってしまいます。しかし、どんな状況であれ、常に「感謝」の気持ちを忘れず、今自分がやれることを精一杯やっていく。オリンピックのアスリート、そして甲子園の高校生の姿を見ていて、あらためて、その大切さを教えられました。

今まで以上の感染防止と感染拡大防止対策の徹底を

新型コロナは依然にも増して猛威を奮っており、現在、緊急事態宣言が続いています。今日から2学期がはじまり、学校でも今まで以上に感染対策の徹底を図っていきたく思います。それと同時に、学校での感染拡大させないための対策も講じていきたく思います。現在、誰が感染してもおかしくない状況であり、まずは本人・家族において、PCR検査を受診(結果待ちも含む)、もしくは発熱等体調不良があった場合は、大事をとって学校を休ませてください。その場合は、出席停止とし欠席には致しません。また、感染状況によっては、感染拡大を防ぐため、急な学級・学年閉鎖もしくは行事の変更等を行うことも予想されます。その場合は、学校メールを活用していきますので、再度、登録されているかどうかをご確認ください。詳細につきましては、本日配布される通知をご覧ください。